

第8回 金沢自転車ネットワーク協議会 議 事 概 要

日時：平成 25 年 11 月 11 日（月）14：00～16：00

場所：金沢市職員会館 1 階 第一研修室

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 議 事

- (1) 第7回自転車ネットワーク協議会の意見と対応（資料1）
- (2) 金沢まちなか自転車通行空間ネットワーク（案）について（資料2）
- (3) パブリックコメントの実施について（資料3）
- (4) その他

4. 閉 会

議 事 要 旨

【第7回金沢自転車ネットワーク協議会の意見と対応（案）について】

◎対応（案）について了承を得た。

【金沢中心市街地の自転車通行空間ネットワーク計画（案）について】

＜自転車通行空間ネットワーク(案)について＞

◎「通行環境の改善を検討する区間」について、下記3点について今後、検討していく。

- ・具体的な案（路面標示や、路面の凹凸の改善など）の検討。
- ・交差点部や歩道上での事故箇所も踏まえ、整備形態（案）の検討。
- ・P9の「快適な通行には適さないということを確認」という言葉の修正。

＜自転車利用マップについて＞

◎利用者の立場にとってわかりやすいように工夫すること（文字の大きさ、見やすさ、自転車の走行しやすさなど）。

◎凡例に、自転車が歩道を通行する際は歩行者優先であるということを記載する。

◎可能であれば、自転車の正しい乗り方やルールについても記載する。

◎一枚でなくても良い。様々な情報を提供し、利用者が必要な情報を選択するという案も考えてはどうか。

【パブリックコメントの実施（案）について】

◎自転車通行空間整備ネットワーク（案）の地図上に記載されている写真に、その箇所の解説（路線名や整備内容の特徴など）を記載する。

- ◎凡例の「自転車専用通行帯」や「車道混在」について、写真や断面図、整備内容などの情報を示した補足ページを作成し、回答者がわかりやすいように工夫する。
- ◎ネットワーク路線を資料2のP11のようにナンバリングし、路線ごとに意見を頂ける形にする。
- ◎回答者を明確にするため、回答の属性に、任意で名前を記載できるようにする。
- ◎整備形態（案）について民意を確認するため「自転車通行空間整備ネットワーク（案）」として実施する。

【その他について】

- ◎細街路に自転車が流入して怖いという意見に対してのフォローアップ調査については、事務局で対応する。
- ◎指摘、修正事項については、会長の一任で確認してから、パブリックコメントを実施する。

委 員 名 簿

分類	所属・氏名	出欠
学識者	金沢大学 教授 高山 純一	出席
	北陸大学 教授 三国 千秋	出席
	地球の友・金沢 三国 成子	出席
警察	石川県警察本部 交通企画課長 種本 英喜	代理出席 (源課長補佐)
	石川県警察本部 交通規制課長 林 邦彦	代理出席 (宮本課長補佐)
	金沢中警察署 交通官 久島 泰志	代理出席 (田村交通第一課長)
	金沢東警察署 地域交通官 蔵谷 町村	出席
	金沢西警察署 地域交通官 新澤 克之	代理出席 (香林交通第一課長)
行政 関係	国土交通省金沢河川国道事務所 交通対策課長 北出 一雅	出席
	石川県 土木部 道路整備課長 東 靖博	出席
	石川県 土木部 都市計画課長 宮田 正弘	代理出席 (竹内課長補佐)
	石川県 県央土木総合事務所 維持管理課長 梶 清一	代理出席 (野口施設整備第二係長)
	金沢市 都市政策局 交通政策部 歩ける環境推進課長 水口 哲哉	出席
	金沢市 土木局 道路管理課長 中川 富喜	出席

出席者： 14名

■開会

●国土交通省金沢河川国道事務所 調査第二課 大下課長

ただいまより、第8回金沢自転車ネットワーク協議会を開催いたします。本日はお忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。私は、事務局を担当しております、国土交通省金沢河川国道事務所調査第二課長の犬下でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

■会長挨拶

○金沢大学 教授 高山会長

先日のESTセミナーでは、全国の100名程の方と議論などができました。全国の自転車の整備計画については、上手く進んでいるところもあれば、無いところもあります。上手く進めるためにはどうしたらよいかを明らかにすることで、全国の自転車走行環境が向上することにつながると考えられます。金沢市でも自転車走行環境の整備を進めてきました。本協議会でも、中心市街地の自転車ネットワークの計画を進めています。実際に走行環境を整備するためには計画が必要であり、もちろん、整備後のフォローアップも必要ですが、今回は、現状と少し先の将来を見越した整備計画について議論したいと思います。本日は、よろしくお願いいたします。

■第7回自転車ネットワーク協議会の意見と対応（案）について

○対応（案）について了承を得た。

■金沢まちなか自転車通行空間ネットワーク（案）について

○地球の友・金沢 三国成子委員

P10の「通行環境の改善を検討する区間」の整備内容は、路面表示の設置だけではなく、自転車事故の原因となる突起物の対応など路面上の整備も検討するのでしょうか。

●事務局（国土交通省金沢河川国道事務所調査第二課 荒川専門官）

路面標示だけではなく、歩行者・自転車の通行環境が改善するように、各道路管理者で対応する路線として位置づけています。

○金沢東警察署 地域交通官 蔵谷委員

P13 金沢まちなか自転車利用マップ(以下、自転車利用マップ)について、「自転車の空気入れ」はサイクルショップやまちなりポートには設置していないのでしょうか。金沢城周辺などに設置が必要でないでしょうか。

○金沢大学 教授 高山会長

自転車利用マップに記載してある「自転車の空気入れ」の設置場所は、なにか根拠はあるのでしょうか。

●事務局（金沢市歩ける環境推進課 小村課長補佐）

「自転車の空気入れ」は、十間町、香林坊、柿木畠などの利用が多い駐輪場に設置しています。まちなりでは運営会社が随時点検しており、必要がないと考えられるため設置していません。また、

サイクルパートナー店に加盟しているコンビニに設置しています。

○石川県 土木部 道路整備課長 東委員

整備が難しい路線については、県道でも該当する路線がありますが、何も対策をしない訳にはいかないで、「通行環境の改善を検討する区間」としてネットワークに位置づけることは良いと考えています。P13 の素案の中に色分けの意味が記載していますが、整備形態(案)として、道路管理者側で歩行者優先の路面標示を設置すると共に、自転車利用マップでも、歩道を通行する場合の注意点などの記載をした方が良いのではないのでしょうか。

○金沢大学 教授 高山会長

自転車利用マップの表示を自転車・歩行者両方にわかりやすく、もう少し丁寧に作成すると良いと思います。

●事務局（国土交通省金沢河川国道事務所調査第二課 荒川専門官）

ご意見を踏まえて、歩道を通行するケースも踏まえてマップを修正いたします。

○北陸大学 教授 三国千秋委員

自転車マップについて、今の凡例では、車に関しては記載がありますが、自転車利用者が走りやすい環境なのかがわかりにくいと思います。また、文字の大きさなど、利用者の立場に立って検討していただきたいと思います。

ネットワーク(案)については、P9の「快適な走行空間に適さない区間」という記載では誤解を受けられると思います。快適な通行ではないにしても、より安全に走行するためにはどうしたら良いかを、自転車、自動車利用者それぞれのことを考慮して検討するべきでないでしょうか。また、自転車のネットワークを作成するにあたり、重要なのは事故だと思います。特に、事故が多い交差点部について、より安全にするにはどうしたら良いのかを、警察とも協議して、それらを検討し対応することも環境向上につながると思います。路線の拡幅や自転車レーンを整備するだけでなく、自転車の走行環境向上につながることは他にもあると思いますので、それらも考慮してネットワーク路線の設定や、整備形態(案)の検討などをすることが必要でないでしょうか。歩行者と自転車の為に安全で快適な環境をサービスし、もっと自転車を利用してもらうためのマーケティングをすることは、車に乗る人が減ることに繋がると思います。今後、高齢化社会に向かって、車から離れていく傾向が必然的に出てくるのではないのでしょうか。

●事務局（国土交通省金沢河川国道事務所調査第二課 荒川専門官）

自転車利用マップは、他のマップも参考にして、特に見やすさについて工夫いたします。

P9の「快適な通行には適さないということを確認」という表現は適切でないと思います。今回は、ガイドラインに従って、快適な通行が可能かということを基準にした考え方であり、ガイドラインで決められている自転車レーンの設置などの整備形態が適さないという意味で捉えていただきたいと思います。事故対策を含めた安全対策は、自転車走行指導帯や自転車レーン整備箇所も含めて実施して参ります。

○地球の友・金沢 三国成子委員

自転車利用マップがどのように提供されるか不明ですが、自転車の正しい乗り方やルールについての情報も加えられるのであれば記載していただきたい。自転車利用マップ1枚で、色々な情報が記載されていると良いと思います。

○金沢大学 教授 高山会長

自転車利用マップは一枚でなくても良いと思います。一枚に色んな情報が入っていると分りづらく、もう少し工夫が必要だと思います。例えば、危険箇所などは、三国委員が調査しているものもありますし、県警の事故データを活用して示すことも可能だと思います。様々な情報を提供して、利用者に必要な情報を選択してもらうというのはいかがでしょうか。

議論点としては、①自転車利用マップの作り込みと、②自転車走行空間ネットワーク(案)の「通行環境の改善を検討する区間」について、具体的な対策内容が不透明であるということだと思います。現段階で、決められないということもあると思いますので、今後は、その決定手順の作成や、対策内容を詰めていくこと、そして地元との調整が必要だと思います。

○北陸大学 教授 三国千秋委員

自転車ネットワークを作成するということは、大変難しく、また全国的にも先進的なことであるため高く評価できます。

■パブリックコメントの実施について

○北陸大学 教授 三国千秋委員

自転車通行空間整備ネットワーク(案)の地図上に記載されている写真(東金沢のバスレーンに自転車走行指導帯を整備したもの)は、全国的にも先進的な事例であり、これを参考に他県でも計画されています。はっきりと、「国道 365 号自転車走行指導帯」と明記してはいかがでしょうか。もう一つの写真についても同様です。事故も減少していることも含めて、全国に発信すべきだと思います。

●事務局（国土交通省金沢河川国道事務所調査第二課 荒川専門官）

ご指摘の通り、写真に解説を付けたいと思います。

○石川県 土木部 道路整備課長 東委員

凡例について、「車道混在」という言葉が分かりにくいと感じます。情報量が多くなることも問題ですが、初めて見る人が分かるように、説明や写真、断面図などが必要でないでしょうか。

○金沢大学 教授 高山会長

状況の提供方法についても様々あります。欲しい人には詳しい情報を得られるように工夫してはいかがでしょうか。

○地球の友・金沢 三国成子委員

一般の方は、始めに自分の家の周囲がどうなっているかを気にしてしまいます。仮に、それが否定的な意見であった時に、1箇所の意見のためにすべてのネットワーク路線が駄目になる可能性があります。特に「車道混在」の路線では「整備の際は、実際の交通状況を踏まえて、安全を図った上で計画します」という注釈を記載する必要があります。

○北陸大学 教授 三国千秋委員

車道混在という言葉が、紛らわしいのではないかとイメージですが、自動車の道を自転車が走らせてもらっているというように感じます。自転車の走行位置が分かるような表現が必要でないでしょうか。

●事務局（国土交通省金沢河川国道事務所調査第二課 荒川専門官）

補足ページを作成し、そちらに最低限の情報を盛り込むようにいたします。一つの路線のために全てが駄目になることは避けたいので、資料2の P11 のように各路線をナンバリングし、路線ごとの対応(案)を細かく提示したいと思います。

○国土交通省金沢河川国道事務所 交通対策課長 北出委員

前回の協議会で、細街路に自転車が入り込んで怖いという意見に対して、フォローアップ調査を行うこととなっていたと思います。金沢市の現地調査や住民との協議を早急に行なって欲しいと思います。それらの協議結果を踏まえて、ネットワーク(案)を見直すなど対応を行ってから、パブリックコメントを実施したほうが良いのではないのでしょうか。

○金沢市歩ける環境推進課 水口課長

地元協議の予定はありますが、具体的にいつ行うということは今の段階では決まっています。前回の意見は、金沢市に直接受けたものではなく、協議会として頂いており、対応は、事務局で検討すべきだと思います。

○金沢大学 教授 高山会長

金沢市で走行環境向上計画策定する際に、金沢市ではある程度調査を行っており、国交省でも交通量と走行速度による走行環境調査を行っています。しかし、中学生・小学生・主婦などは、アンケートで意見を取られていないため、それらの調査を踏まえて、ネットワーク(案)を見直してから、パブリックコメントを実施してもよいと思います。一方で、パブリックコメントを先に実施してさまざまな意見を頂き、それを踏まえて再度、協議するという方法も良いと思います。

○地球の友・金沢 三国成子委員

パブリックコメントを先に実施することに賛成です。パブリックコメントを実施するにあたり、具体的な意見を記載した人に対応できるように、誰が意見を言ったのかを分かるようにすべきだと思います。お互いに意見を突き詰めていく事が必要だと思います。

●事務局（国土交通省金沢河川国道事務所調査第二課 荒川専門官）

ご意見を踏まえて、任意に名前を記載できるようにいたします。

○石川県 土木部 道路整備課長 東委員

様々な意見を反映する必要があると思います。どのような人が見ても、意見を出しやすいような形に工夫をお願いいたします。

○金沢大学 教授 高山会長

パブリックコメントでは整備ネットワーク(案)と記載してあるが、「整備」という言葉はあえてつけているのでしょうか。「整備」を付けると強く感じるため、付けない方が良いのではないのでしょうか。

●事務局（国土交通省金沢河川国道事務所調査第二課 荒川専門官）

事務局では、言葉の使い分けをしています。利用環境向上計画で選定されたネットワーク路線と、今回示した整備する形態を総称して「ネットワーク計画」としています。ネットワーク路線については、すでに平成 23 年にパブリックコメントを実施し、民意を踏まえています。今回は、整備形態(案)についてのパブリックコメントということで、敢えて「整備」を付けています。

○石川県 土木部 道路整備課長 東委員

実際に整備する際には、実際の交通状況を踏まえて行います。パブリックコメントを踏まえて、整備形態(案)が決定したからといって、地元にこうですと強く言えるものではないのではないのでしょうか。

○地球の友・金沢 三国成子委員

ガイドラインで、ネットワーク計画と整備計画は、パブリックコメントを取るようになっており、今回も整備形態(案)としてパブリックコメントを実施すべきだと思います。また、それを基本として、具体的

に整備する際には地元と調整するということが記載されていたので問題はないと思います。

■その他

①金沢市中心市街地以外の自転車ネットワーク検討の調査について

○金沢大学 教授 高山会長

広い範囲での調査であり、自転車の平均的な走行距離は約5キロ未満であると言われるが、聴取り調査では、細街路についても、アンケート調査で経路を把握できるのでしょうか。

●事務局（国土交通省金沢河川国道事務所調査第二課 荒川専門官）

幹線道路だけではなく細街路まで示した地図をA1で出力し、アンケート調査や聴取り式で調査を行っているため問題はないと考えております。

②自転車走行経路分散社会実験について

○金沢大学 教授 高山会長

GPSの経路調査は、電動アシスト自転車だけなのでしょうか。電動ですと普段と経路が変わってしまうのではないのでしょうか。

●事務局（国土交通省金沢河川国道事務所調査第二課 荒川専門官）

あくまで、観光経路の把握が目的で、普段の利用者と違う観光客を対象として調査を実施しているため、影響はあまりないと考えています。

○金沢大学 教授 高山会長

だんだん寒くなり自転車利用者も少なくなると思いますが、調査も現在実施中という事で色々検討をお願いいたします。

■閉会

●国土交通省金沢河川国道事務所 調査第二課 大下課長

高山会長、委員の皆様、活発なご議論をいただき、ありがとうございました。以上をもちまして、第8回金沢自転車ネットワーク協議会を終了致します。ありがとうございました。

以上